



東北大学におけるオープンバッジ導入と
マイクロクレデンシャルに向けた課題

東北大学理事・副学長
(教育・学生支援担当)

滝澤 博胤



学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成する

社会の転換期を生きる学生の創造力を伸ばす教育の展開

- 未来社会に立ち向かうための基盤となる学士課程教育の新構築
- あらゆる境界を越え、創造的で活力ある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育の展開
- パーソナライズドラーニングをはじめとする先進的ICT教育の推進
- エビデンスに裏付けられた新たなアドミッションの展開
- 豊かな経験を通じた、人格形成を促す課外活動・社会貢献活動の充実

社会とともにある大学としての教育の新展開

- 卓越した研究を基盤とした産学共創教育の展開
- 社会人の学び直しの機会を提供する新たなリカレント教育の展開

国際共修キャンパスの創造

- 世界から学生を惹きつける最先端の国際プログラムの開発・提供
- オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修の展開
- 卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化

包括的学生支援の展開

- 様々な背景を持つ学生が安心して、ともに学ぶインクルーシブな環境の提供
- 学生へのキャリア支援・経済支援の充実

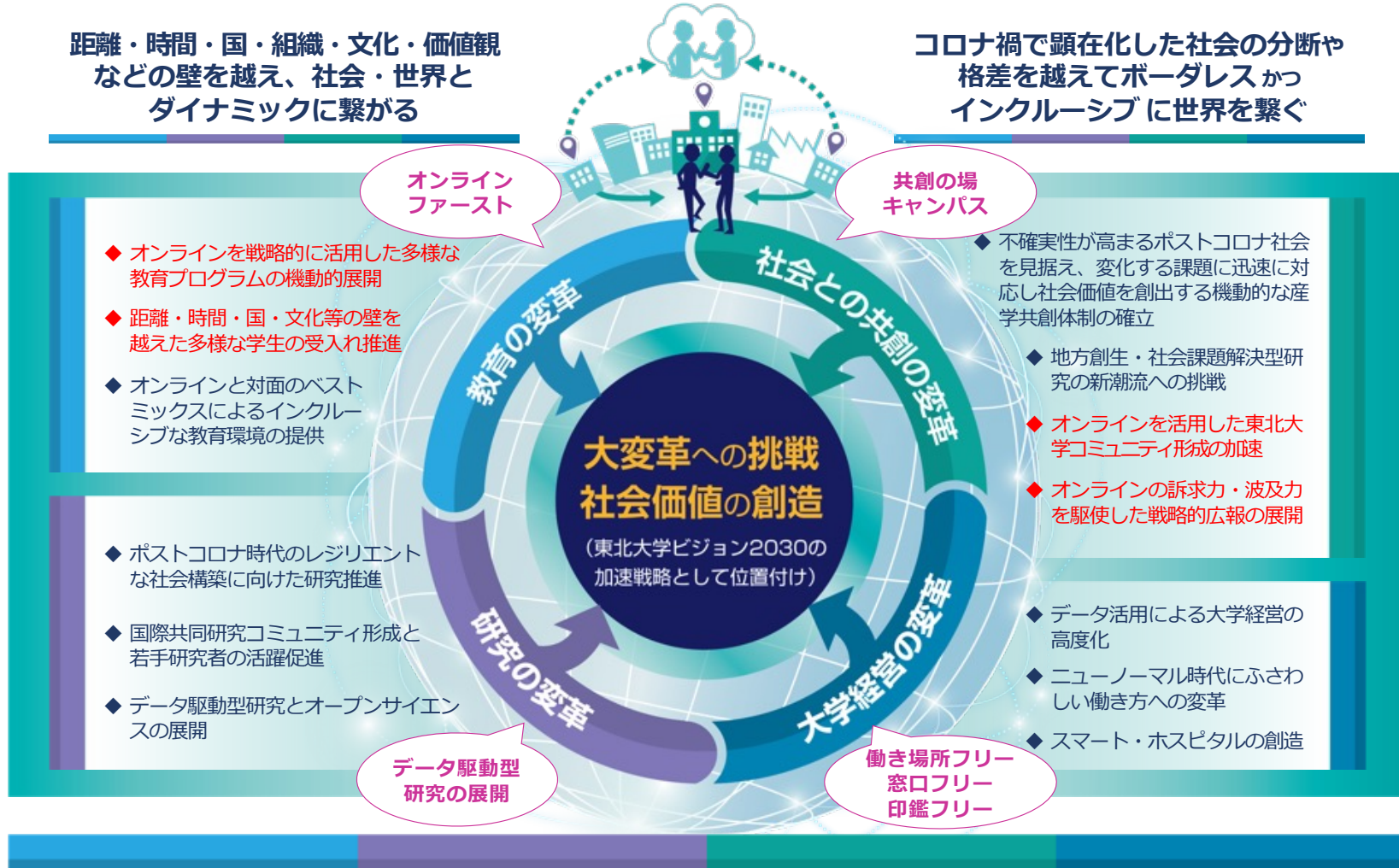


東北大学コネクテッドユニバーシティ戦略

教育・研究・社会共創・大学経営の全方位でDXを加速的に推進

距離・時間・国・組織・文化・価値観
などの壁を越え、社会・世界と
ダイナミックに繋がる

コロナ禍で顕在化した社会の分断や
格差を越えてボーダレスかつ
インクルーシブに世界を繋ぐ





- リカレント教育・リスキルの展開と、学生が「学位」とは別に、身につけた知識やスキルを学修履歴として明示
- 「社会とともにある大学」として、産業界や社会の変化に応じた社会人の学び直しの機会を明示できるようにする
- 個人の学修成果を可視化し、今後の学習プランやキャリア設計の構築に寄与
- 学内外に一般教養レベルから学部専門、さらには大学院レベルに至るまでの多彩な教育プログラムの提供を行っており、多くの社会人が受講する東北大学MOOC、履修証明プログラムといったリカレント教育プログラム、学内の各種教育プログラムの修了者に対し、順次オープンバッジを発行
- 一般財団法人オープンバッジ・ネットワークを通して発行 (2022.3 入会)



バッジの発行方針

基本方針

マイクロクレデンシャルとしての展開

→**質保証** 学修レベル（学部初等、学部、大学院）の明確化
認定基準の明確化
全学レベル、部局（学部・研究科）レベルで質保証

→統一感 デザインの統一（東北大学オープンバッジ）

学務審議会（全学）、教務委員会（部局）で審議・承認

【発行種別】







プログラムの内容（レベル）によりバッジ（色）を分けて発行

種類	内容
パターン1	学部初年次教育に相当する教育プログラム、原則20時間以上60時間未満
パターン2	学部教育に相当する教育プログラム、原則60時間以上
パターン3	大学院教育に相当する高度な教育プログラム



バッジデザイン

プログラムの内容（学修レベル）によりバッジ（色）を分けて発行

グレー<初年次相当>	薄青<学部相当>	紫<大学院相当>
<p data-bbox="427 544 801 587">全学オープンバッジ</p>  <p>(プログラム名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>	 <p>(プログラム名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>	 <p>(プログラム名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>
<p data-bbox="427 975 801 1018">専門オープンバッジ</p>  <p>(プログラム名) (部局名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>	 <p>(プログラム名) (部局名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>	 <p>(プログラム名) (部局名) CERTIFICATE OF COMPLETION</p>



質保証の観点から、バッジが認定する内容（メタデータ記載内容）は
会議体で審査・チェック

- ・全学オープンバッジ：学務審議会企画委員会
- ・専門オープンバッジ：学部・研究科教務委員会

メタデータ記載内容

- 1). バッジ名称
- 2). 講義内容、各プログラムで得られる知識やスキルの内容（日英併記）
- 3). 学習内容の詳細が記載されているwebサイトへのリンク
→現在、一部のプログラムで実施、近日中に全プログラムに
- 4). 取得条件（修了要件）
- 5). 体得した知識・スキル

マイクロクレデンシャル実質化に向けて重要な部分！



メタデータ記載例：全学オープンバッジ

東北大学プルリリンガル・スタディーズ・プログラム-スタンダードコース / Tohoku University Plurilingual Studies Program-Standard Course

編集

説明

「東北大学プルリリンガル・スタディーズ・プログラム」は、英語以外のドイツ語、スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語のいずれかを集中的に学習するプログラムです。スタンダードコースではプログラム修了時にヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のB1レベル相当の到達を目指しています。このオープンバッジ取得者は、専門とする言語圏の文化的背景を深く理解したうえで、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく備えており、政府関係・国際機関・多国籍企業などにおいてグローバルに活躍するために必要な基礎的スキルを修得しています。／ In the Tohoku University Plurilingual Studies Program students study languages other than English, such as German, Spanish, French, Russian, Chinese, or Korean intensively. The Standard Course aims to achieve the equivalent of level B1 of the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) by the end of the program. Students who obtain this Open Badge will have a good balance of reading, listening, writing, and speaking skills with a deep understanding of the cultural background of the language area in which they specialize, and have acquired the basic skills necessary to work globally in government relations, international organizations, and multinational corporations.



発行者
国立大学法人東北大学



作成日
2023/08/09

取得条件

スタンダードコース

以下のすべてを満たし、東北大学プルリリンガル・スタディーズ・プログラムを修了すること。

1. 志望理由書を提出し、言語担当教員による面接を経てプログラム履修生となること。
2. 必修科目「基礎初級語 I・II」4単位を取得すること。
3. 選択科目から6単位以上を取得すること。

*このプログラムは「東北大学挑戦カレッジ」の一つです。

[学習内容詳細へのリンク](#)

Standard Course

To complete the Tohoku University Plurilingual Studies Program students must satisfy all of the following

Submit a statement of reasons for applying to the program and be accepted into the program after an interview with the language instructor.

Obtain 4 credits from "Basic Elementary Languages I and II," which are required courses.

Obtain at least 6 credits from elective courses.

*This program is one of the "Tohoku University College of Creative Endeavor".

知識・スキル

多言語 / multilingual

複言語能力 / multilingual competence

異文化理解 / cross-cultural understanding

コミュニケーション力 / communication skills



コンセプト 高度に専門的・先端的なものを一般の学習者にわかりやすく伝える

ねらい

- 東北大学進学への動機づけ
- 社会貢献
- 東北大学のプレゼンス向上
- 社会人の学びなおし

シリーズ

東北大学サイエンスシリーズ

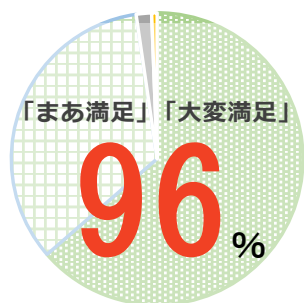
東北大学で学ぶ高度教養シリーズ

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 主に高校生以上を対象 • 比較的なじみやすくわかりやすい • 教養的、包括的 | <ul style="list-style-type: none"> • 主に社会人を対象 • 旬な話題、社会問題等 • 実学的 |
|---|--|





受講者満足度



登録者数累計



オープンバッジ発行者数

- ☑Web上で誰でも無料で参加可能
- ☑大規模かつオープンな講義を提供
- ☑今季は13講義開講
- ☑修了者に対して修了証及び
オープンバッジ (デジタル証明) を発行



※令和4年10月より発行開始
発行講座数 **13**講座



オープンバッジ発行状況

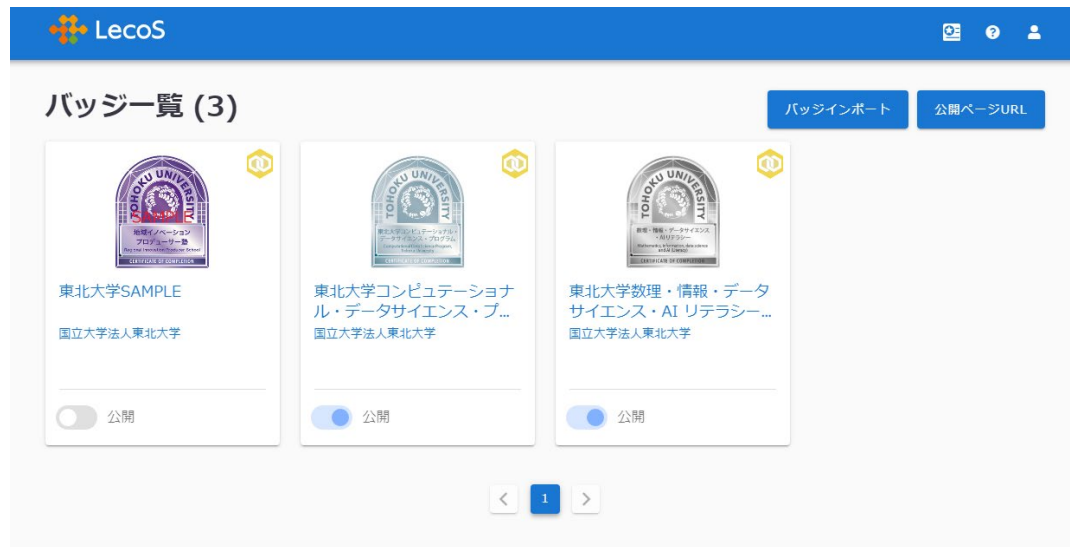
45の教育プログラムで累計 約14,500のバッジを発行 (2023年度末現在)

グレー<学部初年次相当>	薄青<学部相当>	紫<大学院相当>
<p>発行数 約13,400</p> <p>MDASH、 東北大学MOOC等 計16プログラム</p> 	<p>発行数 約800</p> <p>挑創カレッジ、履修証明 計13プログラム</p>  <p>令和5年度以降発行開始 (研究科等の独自バッジ)</p>	<p>発行数 約300</p> <p>ドメインデータサイエン ティスト養成プログラム等 計4プログラム</p> 
 <p>3プログラム</p>	 <p>4プログラム</p>	 <p>5プログラム</p>



バッジの活用～メール署名、SNS共有

○オープンバッジ マイウォレット イメージ



自分専用の「オープンバッジウォレット」でバッジを受けとり、集め、一元管理ができます。

○オープンバッジの活用例

【メール署名】

東北大学●●学部○○専攻4年
東北 太郎
Tel : 090-1234-5678
E-mail : abcdefg@dc.tohoku.ac.jp



◆これまでに獲得したオープンバッジは[こちら](#)からご確認ください◆

【SNS共有】





バッジの活用～履歴書記載

【履歴書】

履歴書（オープンバッジ付き）

2022年7月1日現在

ふりがな とうほく たろう		写真を貼る位置 写真を貼る必要がある場合 1. 縦 36～40mm 横 24～30mm 2. 本人半身胸から上 3. 表面のリブげ 4. 裏面に氏名記入
氏名 東北 太郎	男・女	
生年月日 2000年1月1日生（満22歳）		
現住所（〒980-8577） 仙台市青葉区片平二丁目1-1		電話 090-1234-5678 E-mail abcdefg@dc.tohoku.ac.jp
年	月	学歴・職歴
2019	3	オープンバッジ高等学校卒業
2019	4	東北大学●●学部□□専攻入学
2023	3	東北大学●●学部□□専攻卒業見込み

保有資格	
バッジ画像	バッジ詳細
	東北大学数理・情報・データサイエンス・AIリテラシー https://www.openbadge-global.com/api/v1.0/openBadge/v2/Wallet/Public/GetAssertionShare/UTizNTY2M3hqQ1JvV1ZveGxsZU40QT09 取得年月日 2022/7/1
	東北大学コンピューショナル・データサイエンス・プログラム https://www.openbadge-global.com/api/v1.0/openBadge/v2/Wallet/Public/GetAssertionShare/K2dXUndkNQNkc0dhQld1RFY4sGxBZz09 取得年月日 2022/7/1
保有バッジ一覧	【オープンバッジウォレット公開ページ】 https://www.openbadge-global.com/ns/portal/openbadge/public/assertions/user/SXBieWpYRTF1dkFPZU1za0NTRXJHdz09
志望の動機、自己PR、趣味、特技など	



- ・マイクロクレデンシャルとオープンバッジについて
- ・マイクロクレデンシャルとオープンバッジの今後の使い分け・統合について
- ・オープンバッジの発行と単位取得/学位取得の関連性

区分化・細分化された学修履歴のデジタル証明としてオープンバッジを活用
→オープンバッジ発行対象を拡大していきたい。

マイクロクレデンシャル実現に向けて

→オープンバッジの種別化・グルーピングによるコース認定へ

→学位取得に向けた単位認定制度へ包含

- ・学内開講科目においては単位認定も一部並行
- ・高大接続科目としてバッジ取得の高校生は入学後に単位認定する制度を検討

課題：バッジ発行機関間での互換性の担保
学位プログラムのカリキュラム上での位置付け明瞭化



学修者本位の視点にたてば、

様々な教育機関が提供する多彩な教育プログラムの中から、自身の興味や身につけたい知識・スキルに合ったカリキュラムを学修し、オープンバッジを取得。

集めたバッジを学位認定に繋げるためには

バッジ発行基準の統一

- ・学部基礎レベル、学部専門レベル、修士レベル、博士レベル
- ・学修時間（単位数）
- ・シラバスの明示化
- ・カリキュラムマップ、ツリーへの位置付け

※単位互換制度を参考に

メタデータ記載内容の充実・統一指針化